

年度スローガン

～ 新しい友だちつくろう～

広報はばたき

第32号

新発田青少年健全育成市民会議

少年団体活動推進委員会活動

わくわく台宿

平成25年11月9・10日
新潟県少年自然の家

少年団体所属・一般合わせて89名の子どもたちが参加しました
学校や学年の枠を越えての活動を通して、楽しい
時間を過ごし、たくさんの思い出をつくりました



班のみんなとすぐ仲良しになったよ (野外活動)



高得点を目指せ! (グランドゴルフ大会)



幻想的なキャンドルの光に包まれて… (キャンドルサービス)



かまどの火加減はむずかしいなあ (野外炊飯)



じょうずに野菜をきざめたよ (野外炊飯)



仲間がどんどんふえていくね (レクリエーション)

すこやかな青少年の健全育成を推進しよう

《 参 加 団 体 》

- 新発田地域振興局児童相談所
- 新発田警察署生活安全課
- 市少年補導委員会
- 市民生委員児童委員連合会
- 新発田阿賀北地区保護司会
- 新発田地区少年補導員等連絡会
- 市防犯組合
- 市小中学校 PTA 連合会
- 市内高等学校
- 市教育委員会
- 社会教育委員
- 青少年健全育成市民会議・事務局

青少年を取りまく現況報告

《新発田児童相談所》

所長 長束 克哉 様

平成12年、虐待防止法が制定されましたが、全国の相談所における虐待件数は年を追うごとに増え、24年度にはついに6万件を超え、対応に追われています。新発田を含む県内五つの相談所では、年間約600件で推移しています。

児童相談所は療育手帳を発行する機関でもあることから、障害に対する養護相談や、落ち着きがない、内気である等の行動・性格上の悩みに対する育成相談も増えています。

管内の児童虐待の概況については小さい子への虐待が多く、0歳〜就学前で全体の半数となっています。また、中・高校生でも、虐待を受けていることが報告されています。

虐待者については、実父母が8割を占めており、子どもと接する時間が多い人にその傾向がみられるようです。

虐待は一過性の対応で治まる場合もありますが、要保護児童対策地域協議会を通して、継続的な見守りをしていただく場合もあります。また施設



新発田児童相談所 所長 長束 克哉 様

入所や里親委託など、自宅から離れなければならぬ児童も年に数人います。早急な対応と、各市町村による子育て支援施策を充実し、虐待に至らないように取り組んでいく必要があります。

非行相談は全相談件数に対して、例年5〜6%となっています。児童相談所は処罰する権限がないので、福祉的な対応を中心に、非行事実だけではなく、子どもの内面や養育状況など、置かれた環境をできるだけ把握し、係わりを生かしていくことに努めています。

《新発田警察署生活安全課》

課長 神田 宏 様

新潟県の犯罪件数は、10年連続で減少し、概ね半数近くまでになってきています。しかし、減ってきてはいるものの、コンビニ強盗であるとか、

放火といった凶悪犯罪が増えています。

県内の少年非行については、近年の少子化もあり、10月末現在では刑法犯の3割が減少し、14歳未満の初行犯や、14歳以上19歳以下の少年犯はいずれも減少しています。



新発田警察署生活安全課 課長 神田 宏 様

しかし、新発田管内では、残念ながら刑法犯でいうと57件と前年同期比プラス6件で10%増加しています。

今年には既に有職少年による暴行事件、高校生による恐喝事件、無職少年による空き巣中学生による対教師暴力などで、4名が逮捕されました。

大人の言うことを聞けず、反省する気持ちを持っていない子が増えてきたのではないかと心配しています。

事件に係わりたくないという気持ちからなのか、周りの人が「知らない！」とダンマリを決めこんでしまうと、被害者の安全を確保することも、

加害者に罪を認識させ、更生させる機会をも失うことにもなりかねません。問題から目を背けることなく、『ならぬことはならぬのです』といった教えにあるように、悪に對してきちんと対応していくことが大事であると考えます。

「注意しても聞いてくれない」と、大人が諦めてしまっただけは終わりです。諦めないで声がけを頑張っていただけだと思います。

《新発田南高等学校》

教諭 新田 健 様

本校では朝の登校時に合わせて登校指導、頭髪、服装検査などを重点的に指導しています。また、交通安全という面から、警察の方による講話、自動車学校の協力によるバイクの実技指導を受ける等の取

り組みを行っています。

市内の各校連携の取り組みとしては、自転車盗難防止モラル&マナー作戦ということで、年4回、駐輪場の整理と駅周辺や通学路の清掃を実施してきました。また、生徒が集まるであろう大型商業施設や新発田駅で、服装指導を3回行いました。その他、地域貢献活動ということで、新発田城の年末清掃に部活単位で参加することや、冬時期に商店街のボランティア除雪に協力する予定です。

市内各高校で把握している非行件数は、減少傾向にあるということ聞いています。通常の補導、声かけ運動、列車内巡視活動による非行行為の防止など、関係各位や地域の皆さんの協力で感謝しています。

これからの時期、積雪路における自転車運転・傘さし運転も予想されます。学校でも指導していきますが、今後とも声かけをお願いいたします。

最近の学校現場では、新たなトラブルが起っています。それはスマートフォンなど、多機能携帯型電話の爆発的な普及により、情報モラルに関わる事案の発生です。これは



新発田南高等学校
教諭 新田 健 様

全国的な流れでもあり、高校に限らず中学校の先生でも、頭を悩ませている状況です。

当校でもブログ等に誹謗中傷や、不適切な画像が表示されていたという事案がありました。インターネット上に載せるということは、不特定多数の人の目に情報が触れる恐れがあり、一度載せられたデータは拡散されてしまうということなのです。

情報化社会の中で生徒たちは非常に便利に、また安易に使用してしまう場合がありますが、情報モラルについての意識を高めていく指導が必要であると思います。



〽開所一周年を迎えて〽

《西しばた安全安心ステーション》

鈴木 忠男 様

この10年、西しばた駅周辺の

状況は劇的に変化しました。それに伴い、不審者の出没、空き巣の発生など、防犯に不安を感じる声が高まり、住民有志による住民パトロールが始まりました。その活動の一環として、地区少年補導員等連絡会、地域安全課、新発田警察署生活安全課など、関係各機関のご協力とご指導をいただいで、昨年10月17日にこの安全ステーションを開所しました。



西しばた安全安心ステーション
鈴木 忠男 様

具体的な活動はステーション周辺公園5ヶ所・イオン・駅・パティオ西新発田の防犯パトロール、無灯火自転車の指導、自転車鍵かけの指導、駐駐輪場の自転車整理、乗り

捨て自転車の整理及び警察への報告、道案内、タクシー案内、駅周辺の歩道の除雪及び整理、公衆トイレの整備の手伝い、痴漢防止・特殊詐欺防止広報活動等、警察の指導のもとに行っています。

人員配置は特にローテーションを組んでいるわけではなく、住吉・富塚・佐々木・中曾根・舟入の各地区からの合計9名と犬一匹で、午後4時頃から7時頃まで重点的にパトロールをしています。10月末現在の活動日数は380日、活動人数は延べ1918名です。また、新潟日報・FMしばたの取材を受け、西しばた安全安心ステーションの認知度も上がり、駅利用者からの励ましや感謝の言葉をいただいています。



開所式の様子 (平成 24年 10月 17日)



西新発田駅周辺のパトロール



西新発田駅駐輪場整理



西しばた安全安心ステーションの皆さん

青少年健全育成講演会（平成26年1月18日）

演題 「世代間ギャップをどう埋める？子どもたちとの関係づくり」

講師 一般財団法人教育研修コーチング協会理事長 小林富貴子様



皆さん、こんにちは。ご紹介いただきました小林富貴子と申します。私の講演は皆さんと作り上げていきたいと思えますので、是非協力いただきたいと思っています。

《後出しジャンケン》

私と「後出しジャンケン」をしてみましよう。

どんな感じがしましたか。「ジャンケン」は子どもの頃から幾度となくやりましたね。そして、後出しするとうだったでしょうか。ズルと言われたり、やり直しをさせられたりしませんでしたか？これは自分にとって不利益なことです。ですから私たちは一生懸命、同時に出すようにして、いつしかそんなつもりはなくなると同時に出すようになってきたのです。

私達には子どもの頃に何気なく培った、自分の習慣やクセがあります。それは時代背景によるものもあるかもしれませんが、ジャンケンに限らず「勝った＝良いこと」「負け

る＝悪いこと」こういう意識がリンクしています。それは日常の中で無意識の内に培われており、なかなか変更できません。それは無意識のうちに落とし込まれているから、知らず知らずの行動や無意識の反応になっていつているということがあります。

《いいね！》

最近あったいいことを、3つ書いて、グループで発表会をしてみましよう。ただし、発表を聞いた人は、コメントしたり、質問をしないで、内容がたいしたことでもなく、「いいね！」と言つてくださいいね。

会場内は「いいね！」の声飛び交い、和やかな雰囲気皆さん「いいね！」と言われたのでしたか？

私達には承認欲求というものがあります。相手に承認してもらいたい。認めてもらいたい。分かってもらいたいという気持ちがあります。「いいね！」という言葉は簡単に

人を承認することができません。言う人も楽で、言われる人も嬉しい便利な言葉なのです。是非これから、この言葉を多用していただきたい。人を育てていく上で、褒めること、承認することは、とても大事なことです。

《さとり世代》

17歳から25歳くらいまでの世代の人を「さとり世代」というそうです。この世代の特徴は、「身の丈」または「スモールワールドサイズ」と言われています。高望みはしない。憧れとかは基本的に持たない。出来そうなことをやる。夢みたいなのはバカバカしいので語らないのです。一生懸命やっても手に入らないことは、さつさとやめます。そういう世代との感覚や意識の差をどう埋めていったらよいのでしょうか。

年代のギャップというものは、理解できないところがある。育った環境が違うものから、感覚がつかむことが難しいのでわからない。同じように若い人からみたら上の年代の考え方がわからない。だから「すれ違い」ということが起きます。あまりよいことではありませんね。なる



べくボタンの掛け違いがないようにしていきたい。若い人達の感覚を上る年代の人は「こういう感覚なのだ」と慮らなくてはならないし、若い人に聞いていかなければなりません。

昔のように、思考や育った社会環境、雰囲気など、目指すものがある程度一致していて、「あ・うんの呼吸」でやっていたことも、今は難しくなってきたとも言えます。だから世代が違っていると、言葉の定義を合わせる必要があるのです。また、物事が多様化してくると選択肢が増え、逆に選択しづらくなってくる。どの道を選ばないかを、ある程度指示する。そして、その中で本人が考えられる、本人に任せられることも作っていかないと人は成長しません。指示の出し方も考えていかなければなりません。

(講師プロフィール)

新潟大学歯学総合病院にて臨床経験から医療技術だけではなく、心をサポートする重要性を実感してカウンセリング、心理学、東洋医学、気功などを学ぶ。

退職後、大学非常勤講師の傍ら、世界有数のコーチであるマイケルボルダック氏に師事。2009年に一般財団法人教育研修コーチング協会を設立し、理事長に就任。プロコーチ養成、企業研修、教育講演に力を注ぐ。幼少時に取得した思考パターンで人生のシナリオは創られることから、親子関係と現代の社会環境を踏まえて「しなやかな心を育てるコーチング」を提唱している。悩む時間を短縮して効果的な問題解決を促すパワフルなコーチングには定評がある。

ボランティア活動では2001年にチャイルドラインにいがたを設立して代表を務め、3000人以上の子どもの声を聴き、心のケアに情熱をかけている。

《子どものことは子どもに》

子どもに対して「こうしたらいいんじゃないかな」「ああしてあげたらいいんじゃないかな」と自分の経験値からものを言うのは決して間違いではありません。しかし、その年代の年代の人が欲しいかどうかはその年代の人が決めることです。大人の方が先走ってしまったりいろんなことをやってあげてしまつて「こんなにしてあげたのに、なんでこうしてくれないのか」とイラツとしてしまうのです。

どの時代でも親子の間であつたと思うのですが、一つはあまり手を出しすぎない。先ほどのように指示を出すべきところは指示をきちんとだしとあげて、ある程度まかせせることは自由にさせてやる。プロセスは自由にさせても後で「結果はきちんとくださいね」ということもあるかと思えます。そういう使い分けをしていかなければいけないと思えます。

それから若い人との交流です。ね。「あいつらの考えていることがわからない」という風には言わないで、じっくりと話を聞いてやる。「どういう風にした方がいいと思う?」などと質問形式でコミュニケーション

ーションを図っていくことをマメにやる必要があると思えます。

《「WHY」から「HOW」へ》

「なんでダメだったのか?」と聞くと言いつつ返つてこない。しかし、「次はどうしたらいいんだ?」という聞き方に変えた場合、対策や工夫や次に自分がどうしたらいいか行動につながる答えがでてくる。

私達は子ども達にどのような質問をすれば、どのような言い方をすれば効果的か常に考える必要があると思うのです。言い換えれば、行動につながる質問の仕方、あるいは対策を促すような会話のやり方を工夫しなければならぬということなのです。

怒鳴りつけて効果があるならそれも一つの方法です。緊急のものや、やはり人間ですからイライラする時があつて怒鳴ることもあります。それも決して悪いことではありません。

しかし、一方で相手の行動を促し、どうやったら効果的になるだろう、話を聞いてくれるだろうと、日常的に考える習慣をつけることは、自分の問いかけにもなります。最初に、自分の話し方や対

応の仕方は、子どもの頃に培つたものであるとお話ししました。

ついつい、無意識で出てしまう。自分のパターンに陥らないように、いろんなパターンを習得すること。そうすることによって、世代間のギャップや世界感や価値観の違いがあつたとしても、コミュニケーションをとることができ

ます。ですから、どのようにしたら伝わるのか、どのようにしたらコミュニケーションがとれるのかを、私も含め会場の皆さんにも考え、実行していったきたいなと思えました。今日はありがとうございました。

感想

新発田市子ども会連合会

会長 桐生 正栄 様

私は、長い間子ども会活動にかかわってきました。

今の子ども達は、コミュニケーション能力が不足しているといわれますが、子ども同士では生き生きと自主的に活動していると思います。

講演の中で、小林富貴子先生は「日本語の難しいところは世代間によって受け取り方が違う、17歳から25歳位を、若者の間では「ざとり世代」という」

私は「ゆとり世代」と思い込んでいましたので愕然としました。

「昔は価値観が一致していたが今は多様化している時代、指示する人とされる人、誰にでもわかるように、細かく指示しないと先に進まない。時代環境がつくる感覚の違いを知っておく必要があり、ある程度大人が対策をとらないといけない」とこのようにも言っておられました。

時代の変化についていけない大人たち、そんな大人を尻目に時代の変化に素早く順応できる子ども達を日頃見ていると、案外たくましく見えるものです。

小中学校PTA連合会

星野 茂樹 様

じゃんけんを出すタイミングのように何気なく培つた習慣や癖は子どもの頃に身に付き、幼少時に取得した思考パターンで人生のシナリオは創られると、お話しする小林先生の講演を伺いました。私が参考にしたいところは身近で気軽、簡単に便利な言葉として「いいね」この一言を利用することで、相手の承認欲求を満たす効果がある点です。今後、家庭や職場において使える言葉の一つとなりそうです。

多様化する現代社会の中で、子どもとの世代間ギャップが開き、大人は自分の経験値からものを言うので「イラツ」とするというのは、まさにそのとおりであると思えました。次の対策や行動に繋がる話し方や質問の仕方、自分が常日頃から、どうしたら効果的になるか考える習慣を身につけ、スキルアップを図ることの大切さを感じました。

未来を担う子ども達との関係づくりの中で、しなやかな心を育てるコーチングは大きいに役立つことと思えます。



市民一斉パトロール

11月3日（祝）出発式：新発田駅前公園



11月は「子ども・若者支援強調月間」であり、青少年健全育成運動を推進しています。今年はお出発式・啓発活動に市民166名が街頭声かけと、巡回パトロールに参加し、市民の皆さんに青少年健全育成運動についてお知らせし、協力をお願いしました。



下妻副市長より激励のあいさつ



紫雲寺地区青少年健全育成協議会代表
長谷川健一さんより決意表明



市民会議丸山会長よりあいさつ



市内の育成協議会で取り組みを行っている標語です

| | |
|----------------------------|---------------------|
| ◇ あいさつの種 まいて咲かそう 笑顔の花 | 外ヶ輪小学校区青少年健全育成協議会 |
| ◇ 友達をつくる合言葉 「ありがとう」 | 御免町小・一中校区青少年健全育成協議会 |
| ◇ 今日も一日元気よく みんな仲良く まだ明日! | 新発田小学校区青少年健全育成協議会 |
| ◇ 声かけあって みんなニコニコ いじめゼロ! | 二葉地区青少年健全育成協議会 |
| ◇ 「ありがとう」 みんながえがおに なることは | 住吉小学校区青少年健全育成協議会 |
| ◇ 助け合い みんなで見守る 東豊学区 | 東豊学区青少年健全育成協議会 |
| ◇ あいさつで 広がる笑顔と 強まる絆 | 東中学校区すこやかな子どもを育てる会 |
| ◇ すれちがい 言葉一つで つながる心 | 川東地区自治連合会育成部 |
| ◇ 「大丈夫?」 絆づくりの 第一歩 | 七瀬中学校区すこやか育成会 |
| ◇ あいさつは 心をつなぐ かけ橋だ | さわやか桜木っ子育成会 |
| ◇ 若い芽に そそげ きびしさ あたたかさ | 豊浦地区青少年健全育成協議会 |
| ◇ いつの世も 変わらぬたからは こどもたち | 紫雲寺地区青少年健全育成協議会 |
| ◇ ふわふわハートで みんな仲良く 広げよう仲間の輪 | 加治川地区青少年健全育成協議会 |

毎年、市民会議では市内13育成協議会から標語を募集し、選出された標語を青少年健全育成活動の広報に活用しています。



啓発活動



紫雲寺地区青少年健全育成協議会の活動の様子

11月3日の啓発活動は市内4カ所で行われました。この日以外に地区行事に合わせて行う地区もあり、市民の皆さんへ青少年健全育成活動について呼びかけをしました。

あとがき

今季は早い時期に雪が降り、大雪になるかと思えば平年に比べて雪も少なく、また春のような気候で晴れている日中は車に乗っているとポカポカしていて冬であることを忘れてしまいうようになり、夕方になると冷え込んで、雪のない景色でも寒さが身にしみます。

しかし、天候が良いからか例年なら少ないはずの不審者情報が、この冬は多いようです。いつもなら春が増える不審者情報ですが冬にも多いということで、子ども達にとっては危険に思うことが多くなっているのも事実です。

子どもたちが安心して生活でき大人と子ども達が信頼しあえる地域づくりと、子ども達が伸び伸びと育つてくれることが私の願いです。

(編集委員 金田 緑)

編集委員

発行 新発田青少年健全育成市民会議
事務局 新発田市青少年健全育成センター
住所 新発田市緑町二丁目六番三十六号
電話 (〇二五四) 二六一〇八九七

佐藤 靖雄 富樫 政晴
猿子 洋司 渡辺 富子
金田 緑 荒川真里子